

海外特殊情報

内閣情報部 一五・一二・二（月）

第一號

◎日華基本條約締結の反響

一、蔣政權の強辯

香港一日發同盟—不發表—南京政府の國際的地位を昇格せしめた今次日華條約の締結に關し
一日重慶政權は機關通信中央社を通じて。今後南京政府を承認する樞軸國家に對しては重慶
政權は非反諷的外交措置を採らざるを得ない。左の如くやせがまんの端がりを述べてゐる
日本は遂に南京政權との間に協定を結ぶに至つた。汪政權が中國の民衆に對して又第三國
に對して今後如何なる行動に出ようともそれは總て無効であり。今回締結された條約も又
合法に非ず何等の效力を持つてゐない。従つて蔣政府並に國民は、假令如何なる國が之を
承認しようともこの汪政權に對しては非友好的ならざるを得ず。之を承認する國とも正當
なる國交を維持する事は出来ない。中國の最後の勝利に對する我々の確信は變らない。
由と秩序と正義とは何物にも打ち勝つが故に我々は勝利を確信するのである

二、日本の國民政府承認とソ聯

モスクワ一日發同盟—不發表—(UP ニューヨーク廻り)一日のモスクワ各紙は日本の國民

194

政府承認に關する東京特派員の記事を掲載してゐるが、未だ論評は見當らず。特に「國民府」と言ふ名稱には注意深く括弧を附してゐるのが目立つてゐる。他方新聞及びラヂオは、介石が依然として對日抗戦を繼續しつつある事實を報道して居り、日支關係の推移を注意深くフォローしてゐた外交筋は去る八月一日モロトフ外務人民委員が「ソ支關係は支那が對日抗戦を繼續する限りソ支不可侵條約の條に依つて依然善隣友好の關係を持續するであらう」と述べた時以來ソ聯の對支態度は何等變遷を見てゐない」と述べてゐる。

第二號

◎建川大使 ロソフスキー次長と會見

モスクワ一日發同盟—不發表—UP ニューヨーク朝日—建川大使は過去三日に亘るモロフ外務人民委員との會談に引續き廿日ロソフスキー外務人民委員部次長と會見した。會談内容に就き日本側では單に北洋漁業問題を含む事務的協議に過ぎないと語つてをり日ソ間重要交渉は依然緩慢な歩調を續けてゐる模様である。

▲建川大使も同様に「軍あり」

第三號

◎ソ聯・韓の國內不安に乗ず

ニューヨーク廿日發同盟—不發表—UP ブダペスト電に依れば三十日ソ聯飛行機數臺がルーマニアに越境しモルダヴィア地方にフアツシズム並にアントネスコ政權を誹謗せるパンフレットを撒布したと、尙右はソ聯がルーマニア國內不安の擴大を利用せんとする意圖からなされたものと見られてゐる。

第四號

◎トルコ放送樞軸に楯つく

ニューヨーク三十日發同盟—不發表—UP ソフィア電によればアンカラのトルコ放送は次の如く報じてゐるといはれる。

「ソ聯は三國同盟が早晚反ソ組織と化することを豫想してゐる爲之に参加することを拒絶したのである。

「獨伊樞軸の歐洲新秩序なるものは専ら暴力に頼られたものでありトルコの關知するところではない。

△注意—一日付は發行せず

175

外國宣傳情報第一號

内閣情報部一二・三

一 重慶日本語放送 (一日) 一

(狀態悪く大部分不明、大意を綴る)

一 海濱

(東京都市遞信局聽取)

今日は日本反戦同志田村?氏に日本軍閥の二重欺瞞と題し御話して頂く。――

日本帝國主義者はその戦費を賄ふために公債の發行に頼つて居るが現在では三百億に達して居る、此等の公債は政府金融機關に於て八割を消化するのであつて大藏省預金郵資金郵便貯金で買入れるのである。此等を解剖して見やう、郵便貯金は毎月増加すること一億五千萬圓を突破して居る、この増加は如何にして行はれるかと云へば民衆の犠牲だけではこんな集る譯がない、之こそ動員兵士の貯金集奪に外ならぬのである、陸海軍の人員費は陸軍三〇億海軍二五億で計三五億餘で、陸軍では事變發生以來信託社で強制貯金を始め昭和十二年は事變發生から十三年以降は入隊と同時に之を始めた、當然這入るべき賞與も本人に渡さず留守宅に送り、貯金を引下げるのには中隊長の許可が入り而も實際に於ては許可は下らないのである、海軍でも強制貯金を二割程度行つて居る、兵士の強制貯金は陸軍六億圓海軍七億圓で計一三億に達して居る、之を以て見ると郵便貯金の増加三四億圓の中一